



不登校の児童生徒の保護者のみなさんにお便りします

やまびこ



兵庫県立但馬やまびこの郷
<http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>

心に残る活動「やまびこタイム」

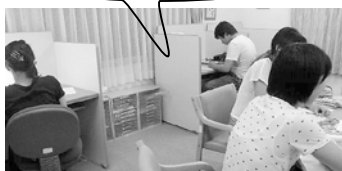
但馬やまびこの郷の過去の利用者に対するアンケート結果によると、心に残った活動の一番は「やまびこタイム」です。やまびこタイムとは、プログラム以外の自由な時間を言います。自分たちでやりたいことを決めて楽しむことができる時間です。

語らいのへやに集まって、ゆっくりとしたひとときを過ごします。トランプ、将棋、オセロ、ゲーム等をして楽しみながら次第に人間関係を広げていくことができます。

遊びのへやでは、ビリヤード、卓球、ダーツ、カラオケ、ギター等を楽しむことができます。



どれどれ、トランプ
楽しそうだなあ。



集中するぞ！オ～

フレンドリーサポーター
(学生ボランティア)と
一緒だと安心だなあ。



毎日夕食後に読書のへやに集まり、静かに学習や読書をします。持参した問題集に取り組む子、スタッフに分からないところを聞く子もいます。

- ①遊びを通してコミュニケーションを取り、人間関係を深めていきます。
 - ②自分たちで決め、自分たちで実行する中で協力し合ったり、互いに認め合ったりします。
- ※このような経験を通して、子どもたちは自信を回復し、それが心のエネルギーになっていきます。

利用方法及び申込みについて

見学・相談

当所の職員が施設の説明や案内をします。教育相談もお受けします。

一日（半日）体験

料理・製作、スポーツ活動等に、1日（半日）体験もできます。

宿泊体験

当所の利用は4泊5日が基本プログラムです。1泊2日等さまざまな日数の利用も可能です。1日利用もOKです。

申込み

各学校に申込みに必要な書類を置いています。但馬やまびこの郷ホームページからもダウンロードできます。なお、学校を通して申込みいただきますようお願いいたします。

ぜひ、但馬やまびこの郷をご利用下さい。まずは、電話でお問い合わせください。



スーさんのちょっとセミナー

「家庭での子どもへの働きかけ」連載その7

僕も私も高校へ行けたよ！

県立但馬やまびこの郷所長 杉村省吾

不登校は下記のように進行し、そして本人・保護者の努力と支援者の支えによって、次第に問題が解決していきます。この連載も第7回目になりましたが、今回は第5段階の立ち上がり・再登校の時期についてお話ししましょう。

①心身症的時期 ②反抗・暴力の時期 ③怠惰・内閉の時期 ④登校準備の時期 ⑤立ち上がり・再登校の時期

勤勉性体得と自我同一性への目覚め

不登校生も中学3年生にもなると、周囲の友人たちが「誰々は卒業すれば、どこの高校に行くか」などと噂したり、周囲に気づかれぬように受験勉強を始めたりします。また三者面談では担任から「高校はどうするのかな？」といった質問が必ずなされます。するとやまびこの郷に来所している子どもたちも、進路選択でお尻に火がついたような感じになり、好むと好まざるにかかわらず、精神的に追い込まれていきます。本人にとっては少し酷な話ですが、実はこの「高校へ行くべきか行かざるべきか」という精神的葛藤と苦悩が、本人の心を強くしていきます。

やまびこの郷に来所する子どもたちの多くは、この時期になると高校進学の情報や、やまびこの郷のスタッフや在籍校の教員、両親、ネット情報などに求め、自分の能力に見合った進学先を模索し始めます。彼らは次第に受験科目や面接の心得などを学習するようになり、この頃には多くが部分登校や通常登校するように成長していきます。これらの成長の源は、不信感から脱して信頼感を獲得し、自らを恥と感じ他人を疑惑のまなざしで眺めていた状態から自律性を獲得していったところにあります。また保護者や周囲の期待に添えないという罪悪感のしがらみから解放されて自主性を獲得し、学校へ行けなかったという劣等感にさいなまれていた状態から、やればできるのだという自信から勤勉性を身につけていきます。これらのことは、自分の存在感が稀薄な自我同一性の拡散状態から、少なくとも高校は卒業しておきたいという自我同一性が芽生えてきたことを意味しています。



やまびこタイムの様子

再登校と進路の決定

最近、入試科目で面接や作文等を重視し、不登校経験のある生徒の入学に配慮してくれる高等学校やフリースクールが増加していることは、不登校経験者やわれわれスタッフにとって、実に嬉しいことであると思います。当所の宿泊研修体験を経て再登校を遂げていった生徒が、進学先が決定して久しぶりに当所を訪れる時には、以前とは異なり、生き生きとした表情がうかがわれ、各プログラムでも年少者への配慮も見せるなどの成長の足跡を感じさせることもよくあります。

次に示す図1のグラフは、平成8年から同20年までの12年間に当所を利用した人たちへの追跡調査結果で、中学校卒業後の進学状況を示したものです。これを見ると、やまびこの郷の利用者の89%が高等学校等へ進学しているということです。そして図2は高等学校等へ進学した176名の人の高等学校等の学校種別を示したもので、75%が全日制および定時制高校に進学しているということです。

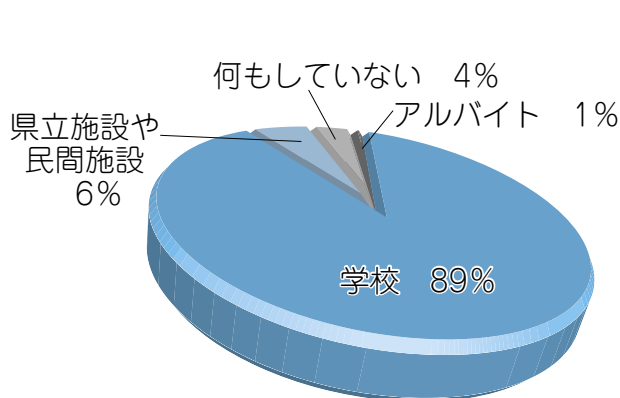


図1 中学校卒業の状況
(対象：15～28歳までの198名)

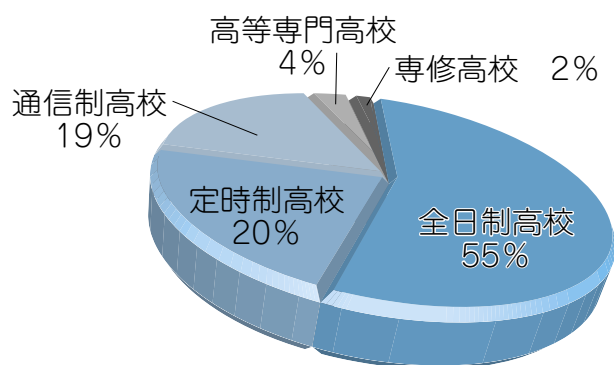


図2 高校等への学校種別進学状況
(対象：15～28歳までの198名中、高校等へ進学している生徒(176名)の状況)

これまでの連載で既に述べてきたように、筆者は再登校へ向けての子どもたちの成長過程は、(1) いじめや辛い体験をしたストレスとトラウマ反応からの回復の時期 (2) 長期欠席による自尊心低下からの自己像修正の時期 (3) 共同生活を通じて自信を獲得していく時期 (4) 将来の進路を見据えたアイデンティティ(自分は何を目的として生きていくのかということ)の模索の時期 (5) 目的・自主性の認識と遅れた学力を取り戻すための学習支援を要請する時期、などの段階を経過するものと考えています。再登校への準備期といっても、本人や周りの人が手をこまねいて待っているだけでは、事態は好転しません。

「聴く・待つ・寄り添う・合わせる・教える・褒める」といった周囲の人たちの温もりのこもった関わりが、不登校生のコミュニケーションスキルと自立心を成長させていきます。そして再登校だけではなく、高校や大学進学などのステップアップを促進していくものと考えています。



(杉村所長 作)

先生になって不登校生を支援したい!!

～やまびこで3年間頑張ったある大学生のつぶやき～

自分は、中学校の時にいじめられ学校に行けなくなり、中1の秋に初めてやまびこの郷にお世話になりました。自分にはやまびこの郷という場所がとても心地よく、2か月に1回のペースくらいで行っていました。その時に「大学へ進学しフレンドリーサポーター（学生ボランティア）になりたい」、「学校の先生になって子どもたちとかかわりたい」という夢も抱きました。

大学に入学し1年生の時は機会に恵まれず、2年生になり初めてサポーターとしてやまびこの郷に来ることができ、1つ目の夢を叶えることができました。最初は自分が中学時代に出会ったサポーターの方みたいに出来るかなあなどと考えていましたが、語らいのへやに入った時に緊張で頭が真っ白になってしまいました。今思えばそれが逆に自分らしく良かったのかなあと思っています。今後も何回かサポーターとして参加し、良い経験を積ませてもらいたいです。そして、あともう一つの夢を叶えたいと思います。

山手 隼平



やまびこ情報

地域やまびこ教室

地域やまびこ教室では、但馬やまびこの郷のスタッフが、みなさんの街に出かけ、いろいろな体験活動や交流会などを行います。きっと、新しい発見や出会いがあります。いろんな人と楽しく活動してみませんか。

- 第1回： 8 / 16 (火)
～ 17 (水) 明石市立少年自然の家
- 第2回： 8 / 30 (火) 神戸市立神出自然教育園
- 第3回： 9 / 20 (火) 県立山の学校
- 第4回： 9 / 22 (木) 県立総合体育館
- 第5回： 11 / 2 (水) ウェルネスパーク五色
- 第6回： 2 / 7 (火)
～ 8 (水) 県立兎和野高原野外教育センター



やまびこ親の会

但馬やまびこの郷では、不登校の子どもを持つ保護者を対象に、今年度も「やまびこ親の会」を1泊2日で実施します。

1日(または、半日)の参加も可能です。共に語り合い、一緒に考えてみませんか!

【期 日】平成23年8月27日(土)～28日(日)

【会 場】県立但馬やまびこの郷

【内 容】・講義「不登校の子どもへの理解とその状況に応じた支援について」

講師 兵庫県スクールカウンセラー 松原秀子氏

- ・保護者交流会
- ・創作活動 (コラージュ、フィンガーペインティング等)

